

## 第533回番組審議会報告

開催日 : 令和7年1月29日(水)  
場所 : 山形グランドホテル  
出席委員 : 柳谷豊彦 委員長／中川愛美 委員／堀内史子 委員／兼田徳幸 委員  
リポート参加 : 相馬佳苗 副委員長／佐藤善哉 委員／中村 出 委員  
議事内容 : ◎社側報告

1. 挨拶 横沢代表取締役社長

### ◎審議事項

1. 番組・視聴率関連 黒須 取締役編成業務局長兼番組審議会事務局長
2. 報道・制作関連 後藤 取締役メディア情報局長
3. 番組合評

### ◇ 山形テレビ開局 55 周年記念

「山形銀行 挑戦が、やまがたを強くする。第24回山形ふるさと CM 大賞」

令和7年1月3日(金) 15:00～16:30 放送

担当 : メディア情報センターコンテンツ担当

ディレクター 本田祐衣

### ◎その他

内容 :

山形テレビの第533回番組審議会が開かれ、1月3日(金)に放送した山形テレビ開局55周年記念「山形銀行 挑戦が、やまがたを強くする。第24回山形ふるさと CM 大賞」を合評しました。この番組は古里の良さ、魅力を再発見してもらおうと山形テレビが2000年から実施、放送していて今回は3部門に33市町村が応募。作品とともに古里への愛情こもった各市町村のプレゼンテーションを放送しました。

委員からは、

「作品を見て、まだまだ知らないことがあるということ気付かされた。山形の今の現在地を知ることができそう」

「グランプリの遊佐町の作品では『游ゴシック体』という、書体を生み出した人が山形出身だということに驚いた」

「15秒という短い尺だが、すごく情報量が多い。情報が練られて密度がギュッと濃いものだった」

「今年は周年を迎えた市町村の歴史を振り返る作品が多く、見ている側も山形の歴史を感じられた」

「出演者のコメントに横文字が多い場面など字幕でフォローがほしかった」

「CM作りがきっかけになり人の輪が広がり、町の魅力の再発見につながっているという意味では、長い間この番組が重要な役割を果たしてきたことがわかった」

「作品上映後のステージのやりとりの長さが市町村ごとで違うのが気になった」

「毎年15秒のCMを生み出すことは容易ではない。良い作品を作ることへのモチベーションとなるような工夫を主催者側に考えてほしい」などの意見が出されました。

以上